

学校名 質問項目	質問の概要	答弁の概要	答弁者
<p>津田学園 高等学校</p> <p>『三重県の観光・バリアフリーについて』</p>	<p>伊勢志摩は、バリアフリーマップの配布や障がい者用トイレなどの情報を発信し、バリアフリーに取り組んでいる。また、街全体で障がいがあっても温かく迎えてくれる雰囲気があるので、外出に車いすが必要な家族も気兼ねなく観光ができ、安心して楽しめる。こうした取組を県全体に広めることで、県外や海外、障がいのあるなしにかかわらず、全ての方々に魅力的な三重県を観光してほしい。</p> <p>県では、「観光施設における心のバリアフリー認定制度」への登録を促進している。この制度は、障がい者への対応などといった「ソフト面での取組」が認定の基準となり、より繊細な配慮が必要になる。</p> <p><u>県内の観光施設におけるバリアフリー導入の進捗はどうか。</u></p> <p>次に、具体的なバリアフリー対策を提案する。</p> <p>温泉は海外ではスタンダードではなく、裸で温泉入ることに抵抗のある方々も多いと考える。そういった方や乳がん等の術後の痕がある方も安心して入浴できるものとして「使い切り入浴着」の導入事例が増えている。</p> <p>三重県には温泉施設も数多くあるので、術後の方や海外の方、裸に抵抗のある方々の選択肢を広げるために、<u>心のバリアフリーの取組として「使い切り入浴着」の普及啓発・販売促進を、県として率先して行うことを提案する。</u></p>	<p>三重県では、古くからのおもてなしの心を継承し、「日本一のバリアフリー観光県推宣言」を行うなど、バリアフリー観光を推進している。伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと連携し、旅行者一人一人の状況や意志で旅行先を決める「パーソナルバリアフリー基準」という考え方に基づいて、情報発信している。旅行者一人一人が情報をもとに旅行先を選択できるよう、バリアフリー対応の情報だけでなく、バリアに関する情報も発信し、県内の380カ所ほどの観光施設等の情報を発信している。</p> <p>また、同センターと連携して「観光施設における心のバリアフリー認定制度」への登録を促進するための研修会の開催などに取り組んでおり、現時点で100の宿泊施設などが認定を受けている。</p> <p>心のバリアフリーとして、気遣い・心配りは非常に重要な観点である。昨年度議決した「三重県観光振興基本計画」の柱の一つに旅行者の受入体制の基盤整備があり、県としても今後「パーソナルバリアフリー基準」の活用や「心のバリアフリー」の意識の向上により、障がい者や高齢者などが安心して訪れることのできるバリアフリーの観光地づくりを推進していく。「使い切り入浴着」の普及啓発は、障がい者や高齢者だけでなく、全ての方が安心して観光地を楽しむ取組だと考える。様々な課題を有する方も安心して訪問できる魅力ある観光地づくりを一層進めていきたい。</p>	<p>政策企画雇用経済観光常任委員長</p>